

【表紙】

【提出書類】	訂正有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2021年3月17日提出
【発行者名】	U B S アセット・マネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 三木 桂一
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町一丁目5番1号 大手町ファーストスクエア
【事務連絡者氏名】	佐井 経堂
【電話番号】	03-5293-3667
【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券に係るファンドの名称】	U B S 地球温暖化対応関連株ファンド
【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券の金額】	1兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

2020年11月20日付をもって提出しました有価証券届出書において、ファンド名称、運用方針の変更を予定しており、重大な約款変更の手続を開始することに伴い記載事項の一部に訂正事項がありますのでこれを訂正するため、本訂正届出書を提出します。

2【訂正の内容】

<訂正前>および<訂正後>に記載している下線部_____は訂正部分を示し、<更新後>の記載事項は原有有価証券届出書の更新後の内容を示します。

第一部【証券情報】

(12)【その他】

<訂正前>

該当事項はありません。

<訂正後>

<信託約款変更（予定）のお知らせ>

「UBS地球温暖化対応関連株ファンド」（以下「当ファンド」といいます。）および当ファンドが主要投資対象としている「UBS地球温暖化対応関連株マザーファンド」（以下「マザーファンド」といいます。）につきまして、以下の内容の約款変更を行う予定ですのでお知らせいたします。
なお、この約款変更につきましては、内容が重大なものとして、投資信託及び投資法人に関する法律の規定に従い手続きを行います。

<約款の変更内容>

当ファンド及びマザーファンドについて、運用の基本方針の一部及びファンドの名称につき所要の変更を行います。

<約款の変更理由>

気候変動問題は、特定のセクターの企業に対して影響を及ぼす局所的な問題ではなくあらゆるセクターに属する企業が長期的に取り組むべき構造的課題となってきました。
こうした状況を鑑み、弊社としましては、当ファンド及びマザーファンドがテーマとする気候変動問題を巡る投資機会をより効果的なものとするために当該約款における運用の基本方針の一部について変更することが望ましいと判断いたしました。
また、同時に、ファンドの特性をよりイメージしやすいようにファンド名称の変更も行います。
(約款変更の内容及び運用上の主な変更点については、後述の「追加的記載事項」をご覧ください。)

<日程>

<u>新聞公告日（受益者確定日）</u>	<u>: 2021年3月18日</u>
<u>異議申立期間</u>	<u>: 2021年3月18日から2021年4月26日まで</u>
<u>約款変更成否決定日</u>	<u>: 2021年4月27日</u>
<u>異議申立受益者の買取請求期間</u>	<u>: 2021年4月28日から2021年5月19日</u>
<u>約款変更適用日</u>	<u>: 2021年5月21日</u>

新聞公告日（2021年3月18日）現在の受益者は、異議申立期間中に、弊社に対し、書面によりこの約款変更に対し異議を申立てることができます。なお、2021年3月19日以降に受益者となる方（2021年3月17日以降のお申込により取得された方）は、異議を申立てることはできません。

<更新後>

追加的記載事項

約款変更箇所新旧対照表

追加型証券投資信託 UBS地球温暖化対応関連株ファンド

下線部が変更箇所を示します。

変更後	変更前
<p>（ファンド名称） 追加型証券投資信託 UBS <u>気候変動関連グローバル成長株式ファン</u> <u>ド</u></p>	<p>（ファンド名称） 追加型証券投資信託 UBS <u>地球温暖化対応関連株ファンド</u></p>
<p>（運用の基本方針） 2. <u>運用方法</u></p> <p><u>（1）投資対象</u> UBS <u>気候変動関連グローバル成長株式マザー</u> <u>ファンド（以下「マザーファンド」といいま</u> <u>す。）</u>受益証券を主要投資対象とします。な お、内外の株式等に直接投資することがありま す。</p> <p><u>（2）投資態度</u> マザーファンド受益証券への投資を通じて、 <u>先進的な技術やサービスで気候変動問題への対</u> <u>応を行う企業や低炭素社会実現を牽引する企業</u> <u>の株式を中心に投資を行います。</u></p> <p><u>個別銘柄の選択においては、主として気候変</u> <u>動に関する取り組みを各セクターでリードする</u> <u>企業、ならびに低炭素社会移行からの恩恵が期</u> <u>待される企業の中で、長期的な業績成長見通し</u> <u>が優れ、事業運営におけるリスクが限定的な企</u> <u>業を選択し投資いたします。</u></p> <p>～ （略）</p>	<p>（運用の基本方針） 2. <u>運用方法</u></p> <p><u>（1）投資対象</u> UBS <u>地球温暖化対応関連株マザーファン</u> <u>ド（以下「マザーファンド」といいま</u> <u>す。）</u>受益証券を 主要投資対象とします。なお、内外の株式等に 直接投資することがあります。</p> <p><u>（2）投資態度</u> マザーファンド受益証券への投資を通じて、 <u>地球温暖化防止に関連する革新的な技術をも</u> <u>ち、今後大きな成長が見込める世界各国の企業</u> <u>の株式を中心に実質的に投資を行います。た</u> <u>だし、地球温暖化防止に関連する新規公開株およ</u> <u>び新興国株にも実質的に投資を行う場合があり</u> <u>ます。</u></p> <p><u>個別銘柄の選択においては、主として温暖化</u> <u>ガスの削減に直接関連する、ならびにエネル</u> <u>ギー効率の改善に関連するという観点から、高</u> <u>成長が期待できる業種、企業を選択し投資いた</u> <u>します。</u></p> <p>～ （略）</p>

親投資信託 UBS地球温暖化対応関連株マザーファンド

下線部が変更箇所を示します。

変更後	変更前
<p>（ファンド名称） 親投資信託 UBS <u>気候変動関連グローバル成長株マザー</u> <u>ファンド</u></p>	<p>（ファンド名称） 親投資信託 UBS <u>地球温暖化対応関連株マザー</u> <u>ファンド</u></p>
<p>（運用の基本方針） 2. 運用方法 (1) 投資対象 <u>先進的な技術やサービスで気候変動問題への対応を行う企業や低炭素社会実現を牽引する企業の株式を中心に投資を行います。</u></p> <p>(2) 投資態度 <u>個別銘柄の選択においては、主として気候変動に関する取り組みを各セクターでリードする企業、ならびに低炭素社会移行からの恩恵が期待される企業の中で、長期的な業績成長見通しが優れ、事業運営におけるリスクが限定的な企業を選択し投資いたします。</u> ～（略）</p>	<p>（運用の基本方針） 2. 運用方法 (1) 投資対象 <u>地球温暖化防止に関連する革新的な技術を持ち、今後大きな成長が見込める世界各国の企業の株式を主要投資対象とします。ただし、地球温暖化防止に関連する新規公開株および新興国株にも投資する場合があります。</u></p> <p>(2) 投資態度 <u>個別銘柄の選択においては、主として温暖化ガスの削減に直接関連する、ならびにエネルギー効率の改善に関連するという観点から、高成長が期待できる業種、企業を選択し投資いたします。</u> ～（略）</p>

運用上の主な変更点

ポイント ～投資ユニバースを拡大します～

投資ユニバースは約500銘柄（変更前）から約1000銘柄（変更後）に拡大します。結果としてセクター分散が強化されます。

変更前のテーマは、再生エネルギー／エネルギー効率／温暖化ガス削減関連企業と、温暖化対策を事業ドメインのコアに据える企業群（狭義のユニバース設定）としていたものを、変更後は、適応（関連技術・サービスを提供する企業群）／低減（各セクターにおいて気候変動リスクの認識と対応に優れた企業群）／転換（2度シナリオ^{（注1）}）に整合する事業転換を進める温暖化ガス大排出セクターの企業群）の3つとして領域を拡大します。

ポイント ～新たな投資アプローチを取り入れます～

UBSがこれまで様々なサステナブル投資戦略で得た知見を基に、拡大した投資ユニバースから優れた投資機会を特定します。具体的には以下の3つの先進的手法を取り入れます。

(1) UBSが独自開発した非財務情報に基づくサステナブルスコアを含むリスク・ダッシュボードを用いて、「低減ユニバース」が含む広範なセクターの気候変動問題への対応状況を評価します。

(2) 同じくUBSが独自開発し受賞歴もある、企業の炭素排出量実績のみならず将来に向けた取り組み姿勢を確率論手法を取り入れて評価する「ガイドパス炭素排出量評価モデル」で、温暖化ガス大排出セクター企業の事業戦略について「2度シナリオ」との整合性を評価します。

(3) ESG専担チームのサポートを得た積極的なエンゲージメント（企業との対話）で投資先企業にベストプラクティスの推進を働き掛けます。他の投資家と協働した働き掛けとしてClimate Action 100+^{（注2）}も積極的に活用します。

ポイント ～グリーン目標を追加します～

パフォーマンス面の運用目標（市場平均を長期で上回ることを目指す）に加え、炭素排出量などの面で市場平均より優れることを目指します。

（注1）「2度シナリオ」

国際エネルギー機関の「エネルギー技術展望（Energy Technology Perspective、ETP）」で示された2100年までの世界平均気温の上昇が少なくとも50%の確率で2℃に抑えられるシナリオのことをいい、このシナリオは将来の予測を定量的に示しているものです。

（注2）「Climate Action 100+」

世界的な環境問題の解決に大きな影響力のある企業と情報開示や温室効果ガス排出量削減に向けた取り組みなどについて建設的な対話を行う機関投資家の世界的なイニシアティブのことをいいます。